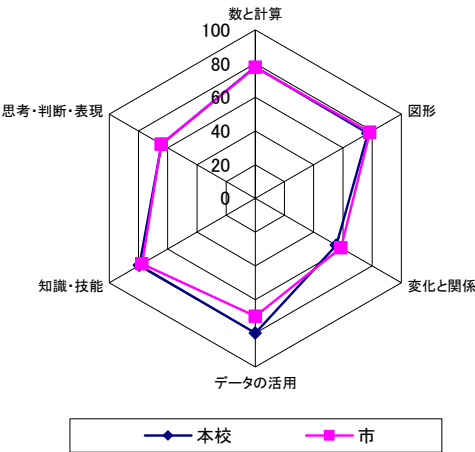


宇都宮市立東小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	78.0	77.7	78.6
	図形	77.1	78.4	74.4
	変化と関係	55.6	58.7	53.0
	データの活用	79.9	69.9	57.2
観点別	知識・技能	79.3	77.5	74.0
	思考・判断・表現	64.3	64.5	58.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は78%であり、市の平均とほぼ同程度である。 ○分数の計算では、分数倍の比較量を求めたり、比較量が基準量の何倍かを求めたりする問題も平均を上回っている。 ●少数の計算が市の平均を下回っており、課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・少数の計算とする場合、小数点の位置を間違わないよう指導していく。 ・2つの数量の関係について考える場面では今後も、初めて授業において出る3学年から積極的に取り扱い様々な場面で活用できるように指導を行っていく。 ・問題文の場面を具体的に想起させたり線分図に表したりして正しく立式できるよう指導をし、定着を図っていく。
図形	平均正答率は77.1%であり、市の平均を1.4ポイント下回っている。 ○半径が与えられた縁の面積を求めたり、対称な図形の対称の中心を求めたりする問題は、市の平均を上回り正答率も90%以上である。 ●図に示す四角形の内角の和の求め方を説明する問題は市の平均を下回っており、課題が見られる。	・三角形の内角の大きさの和を暗記させるだけでなく、内角の和から残った一つの角の大きさを求めさらに180度から引くといった段階を踏ませ、応用問題を多く取り入れた指導を行っていく。 ・立体の展開図の学習の際には、実際に身の回りにある立体を切って開くなど実体験を基にした指導を行うことで、頭の中でイメージできるようにしていく。
変化と関係	平均正答率は55.6%であり、市の平均を3.1ポイント下回っている。 ○速さの単位の関係を理解し、分速を秒速や時速に直す問題は市の平均を上回った。 ●表から面積と人数の割合を求め、どのプールが最も混んでいるかを考察する問題では、市の平均大きくを下回っており、課題が見られる。	・密度を求める計算の公式を再度理解させるとともに、絵や図をつかった視覚的支援をして、子どもたちの理解を高めていく。 ・引き続き道のりと速さ、時間の関係を定着させ、それぞれの変化の仕方についての指導を継続して行っていく。
データの活用	平均正答率は79.9%であり、市の平均を10ポイント上回っている。 ○どれも市の平均を上回った。特に、度数分布表を完成させる問題や表から平均を求める問題では市の平均を大きく上回った。	・代表値を求める問題において、まず平均値、中央値、最頻値などそれぞれの代表値がどのような意味を持つのか、どのように求めるのかを明確にしていく。また、身近な事象を題材として代表値を求める等、実感を伴う問題にも取り組ませ確実に定着するよう指導を行っていく。 ・図形の面積を求める場合に限らず、問題から立式した際に思考の流れを文章化する指導を繰り返し行い、論理的思考力を身に付けさせる。